

活動結果報告書

令和4年5月31日

越前市議会

議長 川崎 俊之 殿

議員氏名 安立 里美

下記のとおり報告します。

日 程 令和4年5月16日（月曜日）～平成 年 月 日（ 曜日）

活動先 政新会だより

活動目的 越前市の取り組みや今後の政策を市民に伝える

研修・調査・その他活動事項及びその結果概要（不足のときは、補助用紙を用いる。）

印刷業者 土橋印刷

折込業者 (株)福井新聞折りこみセンター

日刊県民福井

支払金額 186,582円（川崎悟司議員と按分）

配布先 市内各所

印刷部数 23,500枚

別添のとおり

市議会報告

政新会だより

私たち党派「政新会」を結成し将来子どもたちが明るい心豊かな未来を築けるよう市民の代表として頑張ります

発行

越前市議会

政新会

議員 安立里美 [2面]
川崎悟司 [3面]

〒915-8530
越前市府中1丁目13-7

いよいよ 越前市総合計画の 改定が始まります!!

～今回の改定の手法は大きく変わりました～

前回までは全てをコンサルタント会社に委託して作成しました。しかし、今回は職員が骨子を作成し、市民や各分野の有識者の意見をもとに、職員が手作りします。

改訂の基本的視点

共通視点 市民にとって分かりやすい総合計画

視点1 住んでいる人が誇りを持ち、住み続けたい、帰ってきたいと思えるふるさとづくりを目指す

視点2 市が誇る地域の宝を磨き輝かせ、文化県都としての魅力向上を目指す

視点3 社会変化に対応した安全安心なまちづくりを目指す

視点4 人生百年時代を健やかに暮らせる社会を目指す

基本計画の構成

基本構想

長期的展望に立ち、越前市の基本理念や将来像を示す。概ね20年後の2040年度（令和22年度）を目標年次とします。

● 基本理念 ● 将来像

基本計画

基本構想に定められた基本理念や将来像を実現するために、政策の方向性を体系的に示す。計画期間は5年間（令和5年度～令和9年度）。都度見直していく。

実践目標

基本計画で定めた行政分野ごとの数値目標を設定し、具体的な事業の進捗管理を行う。3カ年分を毎年度ローリングする。

スケジュール

項 目		R 3		R 4											
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議 会	● 全協・全説・議説	方針説明		策定計画一覧説明			基本構想案説明			計画素案説明			計画案説明		議決
審議会	● 諮問、審議、答申			設置											
庁 内	● 策定本部 ● 作業部会		設置												
住 民 参 加	● 地域ミーティング			時期、内容未定											
	● ワークショップ（学生、子育て世代等）														
	● 市民アンケート														
	● 学生へのアンケート														
	● 各種団体意見交換会														
	● パブリックコメント														

総合計画は市の最上位計画であり、この計画を基に市政運営が進められる。これまでの総合計画では市長のマニフェストを組み入れていた。

しかし、今回の改定では、当初予算査定において議論を重ね、政策方針をたたき台としたうえで、市民や学生から出てくる意見も反映しな

がら基本構想や基本計画を改定していく、それも職員の手で作り上げること。基本構想では概ね20年後の2040年を目標年としている。

ぜひ、市民として積極的な意見を提案し、自分たちのまちの未来図を自分たちの手で描いていく為にも住民目線で進めていきたい。

安立 さとみ



3月 議会報告

一般質問

総合計画改定に中学生の意見を!!

【さとみ】 今回の総合計画は2040年を目標年度としています。20年後を目指すのであればぜひ中学生の意見も拾い上げていただきたいと思います。

授業の一環としてワークショップを取り入れるなど手法はいろいろ考えられますし、越前市では令和4年度はウォーカブルな街を目指しています。そこで中学生たちに自分のまちを歩き様々な発見をしてからワークショップを始める事で、興味深い意見も出てくるのではないのでしょうか。

【答】 中学生から意見を聞く事は、有意義なことと考えている。学生アンケートとは別に、「未来の越前市」のイメージなどの自由意見をもらえるように、教育委員会と調整を行いながら進めていきたい。

【意見】 今回の総合計画改定では市民参加体制を作り、市民の意見を計画改定に取り入れることを重視しています。そこで学生の意見をアンケートやワークショップにより集約するようです。対象とする学生は高校生や大学生を考えていますが20年後を目標とするのであれば、中学生

も対象にすることで故郷に思いを寄せる未来の大人が増えると考えます。

温水プールにおける小学校の水泳授業は全校生徒対象にすべき!!

【さとみ】 教育長が議場において、中央公園温水プールを「小学校の水泳授業の受け入れができるように進める」と発言されました。その事で、市内の全小学生在が水泳授業として利用できると市民は特に保護者達は心待ちにしていました。しかし、今回公表されたのは市内17小学校のうち6校のみでした。越前市全児童4,144人のうち1,130人の児童だけが利用できるという事です。70%以上の児童は対象外になります。さらに今年度対象になった6校には1,283万7,000円の予算がつけれ、インストラクターの指導を受けます。この格差をどのように考えますか

【答】 水泳学習委託の方向性は、全校一斉ではなく、徐々に検討する考えである。水泳授業の実施順は、プール本体やろ過装置の老朽化の優先順位の高い6校に決めた。今後の実施校は、令和4年度の実施状況や成果を確認して判断する。

【意見】 現在ある全ての学校プールは老朽化しています。そこで正確に老朽化の優劣つけることができたのでしょうか。また、毎回専門のインストラクターの指導を受け水泳授業を実施する児童と全く機会を与えられなかった児童との格差を感じます。コロナの影響でここ2年間水泳授業は中止されていました。せめて6年生だけは全校児童が利用できるように考慮してほしいことを要望しました。

在宅介護者への紙おむつ 購入支援の拡充を!

【さとみ】 現在高齢者が高齢者を介護する老老介護が増えています。老々介護では年金生活者が年金生活者を介護している方が多くいます。年々受け取る年金が減額される中、様々な介護用品等は値上がりしています。特に消耗品に関しては介護保険対象になっていないため、生活を圧迫している現実を訴える声を多く聞きます。子育てと違い先の見通しが経てないのが介護です。現在介護認定2以上の在宅介護者には紙おむつ購入費用の一部を支援しています。

他市に比べると支援は少ないのが越前市です。今後拡充することはできないでしょうか。

【答】 常時紙おむつを使用して在宅介護を続けている方を継続して支援することは重要。引き続き支援できるよう努力する。

【意見】 現在支給対象は介護認定2以上に限定されています。支給金額も住民税課税世帯では月額800円と県内他市町とは差があります。それも申請した方のみへの対応です。介護度の低い方でも利用している方は多くおられます。他市町の状況を把握されて早急な対策をと要望しました。

川崎 さとし



3月 議会報告

一般質問

コロナ禍における経済格差について

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による経済格差や子どもや高齢者の貧困などの住民格差について、本市の積極的な取組を求めた。

【さとし】 コロナ禍における市内の雇用・失業情勢は？

【答】 直近の令和3年12月の有効求人倍率は、2.05倍まで回復していると報告を受けている。また、生産工程の職業と事務的職業との間で、求人と求職とのミスマッチが生じており、このミスマッチの通減を図る対応策を研究していきたいと考えている。

【さとし】 市内企業が抱える課題を市としてどう認識しているか？

【答】 市内事業所でクラスターが発生し、生産ラインを一時停止するなど原産を余儀なくされている事業所も出ている。また、世界的な原材料や原油の高騰、半導体不足による生産活動の停滞などが要因で生産コストが増大し、収益を圧迫している状況にある。その他、国が緊急融資した「ゼロゼロ融資」について、多くの企業において返済が始まっていることから、市内商工団体や金融機関と連携し、状況を注視する必要があると考えている。

【さとし】 飲食業への影響は？

コロナ禍における事態にあった支援の在り方について

【さとし】 子供や高齢者、障がい者、外国人まで課題をどう受け止めるか。

【答】 子どもに関しては、自宅待機が長くなか、家族内にストレスが蓄積する傾向があり、虐待リスクの高まりやひきこもりに発展しないかなどを懸念している。市は要保護児童対策協議会と連携して市子ども子育て総合相談室を中心に見守りと相談体制を強化していく。

【答】 国の「Go To Eat食事券」事業や県の「ふく割」などの効果により一定の回復傾向にあったが、オミクロン型の流行により、再び厳しい状況となっている。さらに、大広間を持つ飲食店では、親睦会や冠婚葬祭が減っていることから、テイクアウトなどの新たな取組みや個室化などの施設改修などに取組み新たな需要の掘り起こしを進めているが厳しい状況が続いている。これらのことから、本市においては、令和4年度に「えちぜんしマスク宴会割クーポン」を新たにスタートさせ、飲食事業者等の支援を行っていく。

「8050、9060」問題について

【さとし】 潜在化している8050問題について、ひきこもりの課題解決スキームは？

【答】 市社会福祉協議会やセルフえちぜんに事業を委託し、ひきこもりの方や家族を対象とした支援を実施。具体的には、積極的な自宅への訪問等を行うアウトリーチ支援の体制を強化。また、日頃から民生委員や身近な地域の方々との連携を深め、ひきこもりに関する情報共有し、関係機関等と継続した働きかけを行っていくことで課題解決する予定。

【さとし】 高齢者のフレイルが懸念されるが、状況は把握しているか？

【答】 昨年秋に1800人にアンケートを実施した。身体面では「疲れやすい」との回答が2割と最も高く、ついで「階段の昇り降りがしづらい」「長く歩けなくなった」といった結果。また、心の面では「もの忘れが気になる」との回答が6割で、心身ともにフレイルの進行が確認された。

高齢者も自宅待機が長引き、心身のフレイルが進行しているとするデータもあり、要介護状況が進行しないか懸念している。市では包括支援センターや介護事業者と連携して高齢者のフレイル予防事業を実施を目指す。

外国人に関しては、母国語での情報収集が不足し、不安を助長すると共に適切な感染予防につながらない恐れがあり、予防、ワクチン接種などの情報提供を実施。市多文化総合相談ワンストップセンター中心に相談対応と情報発信を実施している。



年を重ね、高齢者となっても 最後まで自分らしく!!

急速に進む少子高齢化で、身近な地域でもお一人やご夫婦お二人で暮らすお年寄りが増えていきます。年を重ねることで身体に何らかの不具合が出てくるのが自然の現象です。今まで普通にできていたことが出来なくなることを日々実感していきます。

しかし、そのような中でも自分らしく尊厳をもって日々を過ごしたいと思っている方がほとんどだと思います。その為には何が必要なのでしょう。介護福祉士として介護の現場で働いてきたことで、様々な困難な事例に遭遇しました。その経験を活かし政策の中に取り上げ、様々な問題を解決してきました。しかし、自分自身が年を重ねることで、取り巻く環境が変わり、新たに考えさせられるこ

とが増えていきます。

私自身、一昨年在宅で父を看取ることが出来ました。学校帰りのひ孫達に見守られ父は旅立っていきました。介護の仕事をし、知識としてはあったはずですが直面すると戸惑うことばかりでした。そのような中、主治医、ケアマネージャ、訪問看護師、ヘルパー等々、様々な分野の方々の支援をいただくことで安心して看取ることが出来ました。いわゆる公助です。公的支援を利用することで介護者の負担は激減します。その事で心の負担も減るのではないのでしょうか。

現在では様々な公的支援があります。そこで更なる公的支援の充実が必要です。

また都市部と違い地方都市では公共交通の充実が図られていないことで、生活範囲が限定されてしまう現実があります。どのアンケート結果でも移動の不便さが示されます。さらに運転免許証を返還することで不安を感じる方が増えていきます。その為の対策として他市では移送サービスやデマンド型交通の充実も図られてきています。越前市でも早急に取り組みなければいけない事業です。

誰もが安心して楽しく自分らしい老後を迎えこ
とができる越前市に!!



「8050」「9060」 問題について

まず「8050」「9060」問題とは、「80」代の親が「50」代の子供の生活を支えるという問題です。定職に就かない子供をいつまでも親が扶養しなくてはならないのです。子供に収入がないため、親の年金が一家の主たる収入源になります。背景にあるのは子供の「ひきこもり」です。

80年代から90年代はひきこもり＝若者問題とされてきました。当時の若者が40代から50代、その親が70代から80代となり、こうした親子が社会的に孤立し、経済的にも精神的にも行き詰まってしまう深刻なケースであります。このことは誰にでも、どの家庭でも起こりうる可能性があるといえます。

「8050」問題と呼ばれる家族形態が、親子の高齢化・長期化により、「9060」問題へと移行し始めている。この関連での不幸で悲惨な事件の報道もあり、大きな社会問題、解決しなければならない課題といえます。「寝たきり大黒柱」という言葉も初めて聞きました。現在、日本の社会保障制度では医療費の自己負担額には上限があり、高齢者ほど公費負担割合が大きい。そのため年金支給額から老親の医療費を差し引いても毎月それなりの額が残る。年金制度と高齢者医療制度を“悪用”し「寝たきり大黒柱」の収入で食いつなぐ人がいるという現状は早急に対処しなければなりません。市役所の福祉部門に早期に相談することが重要です。社会復帰への後押しが期待できます。

私はこれまで小中高とPTA活動に係る中で、越前市のすべての子供たちが“夢と希望”に満ち溢れ、未来へ力強く歩める環境を創っていきたいと感じます。若い世代の時から、切磋琢磨できる仲間が必要と感じます。

共に学び・共に歩み・共に創る、＜人に希望・地域に絆＞そんな社会の実現を目指して活動していきます。